

加工・業務用タマネギの窒素施用量削減と追肥時期目安

本県の加工・業務用秋播きタマネギ栽培における畝立て時の基肥と春先の追肥について、窒素施用量を減肥した場合でも、減肥しない場合と同等の生育および収量を確保することが出来ましたので、施肥量および施肥時期の目安について紹介します。

1 基肥と追肥の窒素施用量の目安

※本報告は、中生品種‘ターザン’(株七宝)を用いて10月下旬から11月中旬に定植した試験結果をもとに作成しています。同様の栽培を行う際の目安として下さい。

表1 10aあたりの施肥量の目安

	窒素量の目安	アグリフラッシュ(窒素成分14%)の場合
基肥	4.8 kg	34.3 kg
追肥 内訳(1,2,3回目)	12.8 kg (3.0 kg, 4.9 kg, 4.9 kg)	91.5 kg (21.5 kg, 35.0 kg, 35.0 kg)
合計	17.6 kg	125.8 kg

2 追肥時期の目安と追肥の注意点

タマネギは2月下旬以降、特に窒素を必要とするため、この時期に合わせて追肥を行い窒素欠乏を防ぐことが重要です。追肥をする際は以下のポイントに注意して行いましょう。

- ① 2月中旬ごろを目安に1回目の追肥を行いましょう。

この期間に雪が残っている場合は、融雪後すぐに1回目の追肥を行いましょう。

- ② 計3回に分けて行いましょう。
- ③ 追肥の間隔は10日~14日を目安に行います。

1回目の追肥の状況に合わせて、3月下旬ごろを目途に追肥が完了するように間隔を調整します。

表2 追肥のスケジュール例



※ ① ② ③ は追肥の時期と何回目の追肥かを表す

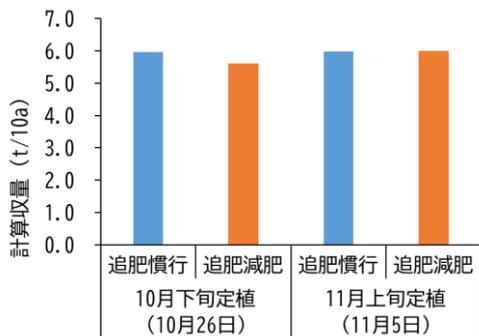


図1 減肥(基肥・追肥)による収量への影響

※基肥はともに減肥(窒素成分:4.8 kg/10a)

〔技術の効果およびコスト〕

- 1 技術の効果 窒素施用量の削減
合計 24.4 kg/10a → 17.6 kg/10a 計 6.8 kg 減
- 2 技術のコスト 窒素肥料費の削減
約 28 千円/10a → 約 20 千円/10a 計 約 8 千円 減
(※参考価格:アグリフラッシュ 444 (N-P-K:14-14-14) を使用した場合 (R4 年時点))

(農試 園研センター 野菜・花き研究 G)